

第59回全国教職員剣道大会

平成29年8月5日(土)
埼玉県立武道館



昨年の沖縄大会開催により全国開催一巡。今大会から二巡目のスタートとなる。

本県では稽古研修会(稽古並びに試合)で選手選考をすることにしている。4月より毎月1~2回、青森西高校・野辺地高校剣道場をお借りして実施してきた。

本大会は団体戦は幼・義務教育から1名、副将45歳以上、大将55歳以上との規定があり、校種を考慮し、稽古・試合状況など長い時間をかけて全国教職員大会に太刀打ちできる選手を選考した。(稽古日; 県剣連HP掲載)

[個人; 女子の部]

久保田友美(南部町立名川小学校)

2回戦 VS 加藤やよい(広島; 盈進中学高等学校)

本大会に初出場となる久保田先生。やや緊張の面持で臨んだ1回戦。対する加藤選手は大会慣れしており、洗練された速い動きで久保田先生を翻弄。惜しい面があったが、鏝ぜり合いから打とうとした刹那を引き小手、引き面をとられた。相手の加藤選手は今大会第三位に輝いている。是非、来年度の大会で雪辱を果たして欲しいものである。



左が久保田先生

[個人; 幼・義務教育の部] 中村雅人(三沢市立第一中学校)

1回戦 VS 奥山 登(武生第六中学校)

中村先生も初出場である。相手の奥山選手は身長が大きく頭一つの差があり、長身を生かした懐の広い剣風であった。なかなか懐に攻め入れず、相手からの面への攻めに対して小手を利かした応酬で凌ぐ。数合いの後、お互いに面に跳んだが、身長差のためか、相手の面に軍配。臍目に見て中村先生が優勢だったと思う。二本目は面を警戒しすぎて、攻め入りに対して間合いを退いてかわし、面に跳ぼうとしたところを出ばな面に打ちとられた。

[個人; 高・大・教委の部]

柴田康太(野辺地高等学校)

1回戦 VS 千葉 一輝(県立大船高等学校)

8年ぶりの出場となったが、全国大会出場のブランクを感じさせない果敢な攻撃で、初太刀を取ろうという気迫溢れる試合だった。

しかしながら、相手は層の厚い地域の代表で剣先はキツく攻めを捌く落ち着いた試合ぶりである。

途中で攻め合っている時に竹刀を捲かれ面を奪われる。一本取り返そうと渾身の面を打とうと勝負に出ようとしたところを小手に切られた。



【団体の部】

V S 岡山県



[先鋒] 中村雅人 (三沢市立第一中学校)

V S 谷本悠樹 (美作市立大原中学校)

個人戦の悔しさをこの団体戦で晴らそうとしているような試合ぶりだった。積極的に攻め入り、崩して果敢に打ち込んでいた。しかしながら、中間に入りその攻めの一瞬、居着いたところに面を喰らった。しかし、その後も臆することなく攻め続け一瞬のすきをつけて引き小手を奪う。勝負となってからもその積極さは収まらなかったが、残念ながら時間切れ。(引き分け)

[次鋒] 洞内孝雄 (弘前工業高等学校)

V S 勝見拓也 (倉敷高等学校)

先鋒戦後半の勢いをそのまま引き寄せたいところ。手数が多く、動きのすばしこい相手で掴まえるには相当苦勞しそうなタイプだった。案の定、当惑している刹那、わずかに手元が浮き、そのところを引き小手にとられる。一本返そうとするが、打突の間合を作ることができずそのまま時間切れとなってしまった。(一本負け)



[中堅] 廣谷大介 (佐井村立佐井中学校)

V S 手島貴教 (県立倉敷天城中学校)

1つビハインドで迎えた中堅戦。足捌きが良く動きの速い相手に対して動ずることなく落ち着いた立ち合いから果敢に技を繰り出す。が、今ひとつ相手を崩すことができない。絶えず、「先々の先」で相手を遣い、技を出させない。終始、この状況で進んでいったが一向に一本を奪えない。相手の面に乗った面が有効打突かと思えたが、旗が一本も上がらず。そのまま時間切れ(引き分け)

[副将] 鹿内 修 (弘前工業高等学校)

V S 真野哲也 (県立高梁城南高等学校)

重厚な立ち上がりから、今まさに攻め入ろうとした刹那、相手選手が虚を突く動きで前に出る。そこをすかさず面に乗ろうとしたところを小手に変化。一本となる。その後、慌てることなくじわじわと相手を追い詰める。が、危険と察してか、間合いを切られる。大将戦に回すべく強硬な攻めで技を打ちだすが、暖簾に腕押し状態。返すことができず万事休す。



[大将] 工藤清行 (黒石高等学校)

V S 矢部清吾 (岡山市立福浜中学校)

団体戦の勝敗が決してしまっただが、本県の意地を見せて欲しいところ。大将戦らしく重厚な攻め合いを期待したが、工藤先生が攻め込むと引いて間合いをとり、合い気にならない。思案している隙をつけて相手が思い切りのよい面に出た。居着いていたか？反応できずに一本先取される。2本目は思い切りよく深く詰め寄り突きから面と技を繰り出す。が、それを躲され面抜き面に打ちとられる。

(文責；川代武彦)